

除草剤

グラメックス®

水和剤

シアナジン水和剤



イネ科雑草から広葉雑草まで、
広範な一年生雑草の光合成を
阻害する除草剤です。

特長

- ◆ **幅広い殺草スペクトラム**
イネ科から広葉雑草まで広範な一年生雑草を防除できる。
- ◆ **散布適期幅が広い**
雑草発生前から発生始期（2～3葉期）まで使用できる。
- ◆ **散布後、30～40日間効果が持続し、雑草の発生を抑える。**
- ◆ **土壌中の残留期間が短い。**
- ◆ **人畜、魚介類に毒性が低い。**



アグロ カネショウ株式会社

東京都港区赤坂4-2-19

®はアグロ カネショウ(株)の登録商標

適用雑草と使用方法

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	シアナジンを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量				
日本芝	—	—	春期雑草発生前	200~400g/10a	200~300ℓ/10a	2回以内	全面土壌散布	—	2回以内
			秋冬期雑草発生初期	50~200g/10a					
樹木等	公園 庭園 堤とう 駐車場 道路 宅地 運動場 のり面等	一年生雑草	雑草発生前	300~600g/10a	100~200ℓ/10a	3回以内	植栽地を除く樹木等の周辺地に全面土壌散布	全域	3回以内

※他、ばれいしょ、たまねぎ、アスパラガス、桑、すぎ・ひのきにも登録があります。

平成25年1月現在

効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 本剤は雑草発生前～発生始期に有効なので時期を失しないよう土壌全面に均一に散布してください。
- 本剤はツクサに対して効果が劣るので、ツクサの優占圃場での使用はさけてください。また、広葉雑草に比べてイネ科雑草にはやや効果が劣るので、イネ科雑草には所定範囲内の多目の薬量としてください。
- 砂土、水はけの良い土壌では、薬害を生ずるおそれがあるので使用をさけてください。また、雨の多い時期、場所での使用はさけてください。
- 高温時の散布は薬害を生ずるおそれがあるので、所定範囲内の少な目の薬量としてください。
- 日本芝で春期に使用する場合、芝の萌芽期以降の散布は黄化褐変等の薬害を生ずるおそれがあるのでさけてください。また、秋冬期に使用する場合は、一時的に葉身に黄化や退色などの薬害を生じる場合があるので、芝生育期（生育休止期）に使用してください。尚「芝生育期（生育休止期）」とは茎葉の一部に緑色が残っていても、生育の停滞している時期を指します。
- 蚕に対して影響があるので、桑葉にはかからないようにしてください。
- 公園、庭園等で使用する場合、特に以下のことに注意してください。
 - ① 農作物の栽培地周辺での使用をさけてください。
 - ② 激しい降雨の予想される場合は使用をさけてください。
 - ③ 本剤の飛散あるいは流出によって有用植物に薬害が生ずることのないよう十分注意して散布してください。
 - ④ 水源池等に本剤が飛散・流入しないよう十分に注意してください。
 - ⑤ 散布器具、容器の洗浄水及び残りの薬液は河川等に流さず、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

安全使用上の注意

- 誤飲、誤食などのないよう注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗してください。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いには十分注意してください。
- 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意してください。
- 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管してください。

保管……密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。

魚毒性……水産動植物（藻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

空袋は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理する。

- ラベルをよく読む。
- 記載以外には使用しない。
- 小児の手の届く所には置かない。